校番	65	○	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式

平成３０年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校　長	小迫　孝太郎	生徒指導主事	冨島　俊宏

取 組 事 例 名	『　教職員講話　』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的理解」	1	「多様性に対する適応力」	3	「自己理解・進路実現」	2

取　組　の　ね　ら　い『キーワード　心のスイッチを入れる』

本校の実態として，人の話が聴けない，人の気持ちに気付けない，言葉の選び方・表現方法が悪いなどが原因で，人間関係がうまく築けない生徒が出る。これらの問題が，暴力行為やいじめに発展する場合もある。また，自己肯定感が低く，目的意識も低いため，その時々で頑張ることが苦手な生徒が多い。その結果，学校の指導が入らない，授業をしっかりと受けられないなど，教職員との関係も向上していかないことも生じている。

これらを改善するため，日頃接することの少ない教職員も含め，様々な角度，人などから話を聴く機会を多く与えることで，人間関係形成や自己実現に対する生徒の内発的動機付けを行う。

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード　フリートーク』

○教職員の講話を聴き，ワークシートに振り返らせ，まとめた。

○講話のテーマは，「生徒のために」という視点で，教職員の自由な形態とした。以下のような，個人的なテーマから本校の現状を踏まえたテーマなどがあった。

・12 月末には，6 名が「今年を振り返って成長したと思うこと」，「来年挑戦したいこと」など

・１月末には，12 名が「３学年の先生から１・２年生の生徒へ」，「退職するにあたり」など

取組の課題・創意工夫『キーワード　一体感』

○多くの人の話が聴けるように，一人当たり５分程度の持ち時間とした。

○生徒の椅子を話し手に向け，生徒と教職員の顔が良く見えるようにし，距離を縮めた。

○生徒が話を聴きやすいよう，生徒に動作を取り入れたり，ＩＣＴの活用（パワーポイントや動画）をした。

●教職員同士が打合せをする時間がなく，内容が重複する場合が生じた。

●生徒達が意見を言ったり，生徒同士で議論したりという場面がほとんどなかった。

取組の成果（効果）『キーワード　前進』

生徒・教職員にアンケート（振り返り）を行い，以下のような意見が出た。

○生徒と教職員の距離が縮まった。

・授業で関わりのない教職員・生徒と関わるきっかけとなった。

・教職員の本音を聴くことができた。

・生徒へ指導しやすくなった。

○自分の生活・態度を見直した。

・ルールや時間を守ることの大切さを感じ，日々意識したい。

・周りの人に迷惑をかけないよう，コミュニケーションを図りたい。

・諦めないで挑戦していきたい。

・思ったことを生徒にぶつけていこうと思った。

○将来について考えた。

・後悔しないよう，今のうちからしっかり勉強しておきたい。

・進路について，早く目標を決めて，努力し実現していきたい。

・進路のことに関して，生徒自らが考えるようになり，質問してくることが増えた。

今　後　の　展　開『キーワード　発展』

○年度始めなど，定期的にこのような機会を設け，人間関係形成に役立てたい。

○授業以外の式や集会など，特定の教職員が話すことが多いが，いろいろな教職員が話す機会を与えていきたい。

○生徒が発言したり，意思表示のしやすい方法を考えていきたい。

他教科との関わり『キーワード　連係』

○進路実現に向け，学習意欲の向上につなげたい。

○教職員と生徒の人間関係形成から，教科指導や規範意識の醸成につなげたい。